

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（8 年 4 月判断）	今回（8 年 7 月判断）	前回 比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）8 年 7 月判断は、前回 8 年 4 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学などが減少しているものの、輸送機械や汎用・業務用・生産用機械などが増加しており、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（8 年 4 月判断）	今回（8 年 7 月判断）	前回 比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	
設備投資	7 年度は前年度を上回る見込み	8 年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	7 年度は増益見込み	8 年度は減益見込み	
企業の 景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を上回る	前年を下回る	
輸出	前年を下回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、家電大型専門店販売は、9年4月の省エネ基準引上げを控えエアコンの駆け込み需要がみられているほか、サッカーワールドカップの開催に伴いテレビが好調で、前年を上回っている。スーパー販売は、時短志向の継続のほか、ゴールデンウィークなどのイベント時におけるハレの日需要により寿司や総菜などが好調で、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、気温高により日焼け止めや殺虫剤などの季節関連商品が好調で、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、新型車効果などから前年を上回っている。このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 9年4月の省エネ基準引き上げを控え、エアコンの駆け込み需要がみられている。また、サッカーワールドカップの開催に伴い、大型・高品質のテレビも好調となっている。（家電大型専門店）
- 共働き世帯の増加などを背景に時短志向が継続しているほか、卒業式や入学式、ゴールデンウィークなどのイベント時におけるハレの日需要も引き続きみられており、寿司や総菜などが好調であった。（スーパー）
- 例年に比べて気温が高かったことから、日焼け止めや殺虫剤、アイスなどの季節関連商品が好調だった。また、中東情勢の影響を懸念し、ポリ袋やラップなどの日用品をまとめ買いする動きもみられた。（ドラッグストア）
- 新型車効果のほか、「自動車税環境性能割」の廃止による購入負担の軽減から、販売台数は増加している。（自動車販売）
- 物価高による節約志向の高まりから、近距離・低価格な旅行への需要が高まっており、国内旅行者が増加している。（宿泊業）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械は、新型車の投入効果により国内外で需要が堅調なことなどから、増加している。汎用・業務用・生産用機械は、生成AI向けを中心に半導体製造装置の需要が好調なことなどから、増加している。鉄鋼は、自動車向けや造船向けの需要が堅調なことなどから、増加している。化学は、原材料の調達コスト上昇に伴い、一部品目で生産設備の稼働を抑制したことなどから、減少している。このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 新型車の投入効果により、国内外で需要が堅調なことなどから、生産量が増加している。（輸送機械）
- 生成AI向けが牽引する形で半導体製造装置に対する需要が好調ことから、高水準の操業を維持している。（生産用機械）
- 自動車向けの需要に加え、船舶の建造需要を背景とした造船向けの需要も堅調ことから、生産量が増加している。（鉄鋼）
- 中東情勢の影響を受け原材料の調達コストが上昇しており、採算の確保が困難な一部の品目については、生産設備の稼働を抑制している。（化学）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、横ばいで推移しているほか、新規求人数は、前年を下回っている。一方、法人企業景気予測調査（8年4-6月期）の従業員数判断BSIでみると、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超が続いており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 企業の人手不足は続いており、人材確保のため、賃金の引上げや休日数の増加など、労働条件の改善に向けた取組が進められている。（人材・職業紹介）
- リファラル（社員紹介）採用など多様な手法で採用活動を進めているなか、AIサーバー向け製品の増産に伴い人手不足が生じつつあるため、今後の生産拡大を見据えて中長期的に人材確保を進めていく。（情報通信機械）
- 今後の店舗数拡大を見据え、働き方に関するニーズの多様化に対応した就業環境の整備を進めることで採用力の強化を図るほか、外国人材の活用やセルフレジ、AI発注システムの導入による省人化を推進している。（小売業）

■ 設備投資 「8年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 製造業では、「情報通信機械」で減少するものの、「化学」、「鉄鋼」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「鉱業・採石・砂利採取」などで減少するものの、「電気・ガス・水道」、「金融・保険」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 成長事業の強化を目的として、製造設備の新設を含む生産能力増強投資などを予定している。(化学)
- 発電関連の大型設備投資を予定している。(電気・ガス・水道)

■ 企業収益 「8年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 製造業では、「繊維工業」などで増益となるものの、「化学」、「情報通信機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融・保険」)では、「建設」、「農林水産」などで減益となるものの、「小売」、「学研究・専門・技術サービス」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が拡大している」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が拡大している。なお、先行きは「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、給与住宅などが減少していることから、前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回る」

- 輸出(円ベース)は、鉄鋼などが減少しているものの、自動車、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アフリカなどで減少しているものの、アジア、北米などで増加している。

なお、輸入(円ベース)は、化学製品、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、北米などで増加している。

3. 各県の総括判断

	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けた動きに一服感がみられる。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。